

PBS実践に役立つ資料集



令和5年2月

吉野川市教育委員会教育研究所
吉野川市特別支援連携協議会WG

【PBSの実施において】

記録をとるメリット

➤ なぜ記録をとる必要があるの？

本当に指導が効果があったのか確認（証明）する。

- 教員：「指導に対して責任を持つ」
- 児童生徒：「間違っただ指導を受けないための権利」



指導の答えは、
子どもが持っているよ
記録を分析して
子どもから学ぼう！

➤ 記録をとることのメリット

・指導目標が達成できたか客観的に評価できる。

→学習評価の基本。児童生徒にどういった力が身についたか学習の評価を的確に捉えることができる。指導と評価の一体化につながる。

できた？
できなかった？

・具体的な指導目標の設定および見直しができる。

→指導前に記録をとることで、現状の実態把握ができ、具体的な指導目標を設定できる。（課題分析参照）
→中止基準を決めておくことで、指導目標の見直しができる。

ここでつまづいているのか！
指導目標や方法を変えてみよう

・指導方法の効果が分かる。

→指導の効果の有無を迅速かつ的確に把握できる。
→効果がある場合、有効な指導方法が分かり、他の場面でも応用できる。
→効果がない場合、どの過程でつまづいているのか理解しやすく、指導に役立てやすい。

この指導方法は効果有り！
他の場面でも使ってみよう

・教員が毎回同じ指導方法で指導できる。

→教員自身が指導方法を再認識することで、過不足ない適切な支援を行うことができる。

まずは、一人でできるか
どうか声かけせずに待ってみよう

（毎回やり方を変更することは、毎日薬をかえるようなもの。不必要な支援にも注意。）

・関係する教員、保護者との共通理解ツールとして使用できる。

→困難な時はみんなで励まし合い、
できたときは喜び合うことが大切。

（関係する教員で記録を見ながら）
□はできるようになったね。次の支援は…

→教員間で同じ指導方法で一貫した支援を行うことができる。
→共通ツールを使うことで、教員間の協議がスムーズにできる。
→保護者への説明において、共通理解ツールとしても使用できる。

・児童生徒に評価を具体的・視覚的にフィードバックできる。

→具体的、視覚的にフィードバックすることにより、児童生徒がどのように行動すれば良いのか理解できる。

目標達成まで後〇回！
□がよくなるようになったね

→児童生徒自身で自己評価することにより、目標を意識して行動することができる。

☆記録の継続が重要！簡単に継続しやすい記録方法や記録用紙を使ってみよう！

課題分析

- ・様々な行動からなる課題を細かなステップで書き下すこと。
→どの過程でつまづいているのか理解しやすく、教え方の工夫ができる。
- ・目標設定時や実践中に上手くいかないときに課題分析をするとよい。
- * 抽象的な目標を具体的な目標に書き下す時にも使用できる。

実態：登校後の準備が1人でできない

行動	4月19日	4月20日	4月21日
教科書や筆箱を机に入れる	×	×	×
水筒をカゴにおく	○	○	○
提出物を出す	×	×	×
宿題を出す	×	×	×
カバンをロッカーに片付ける	○	○	○

○・・・1人でできる
×・・・できなかった

水筒をカゴにおくことはできている。かばんを背負ったまま水筒を置いているようだ。宿題や提出物もかばんを持ったまま動いて、カゴに入れるようにすれば、できるかも…(ABC分析のA「きっかけ」の変更)。まずは、「宿題をカゴに入れる」を目標にしてみよう。

目標 登校したら、宿題をカゴに入れる

(ABC分析のB「望ましい行動」, 課題分析から絞り込んだ目標)

3点・・・1人でできる
1点・・・先生と一緒にできる
2点・・・先生の声かけや指さしでできる
0点・・・できなかった

スモールステップで得点を設定。
→支援の度合い(1人で、声かけ等で)や達成度で得点を設定する。

行動	4月22日	4月25日	4月26日	4月27日	4月28日	5月6日
カゴの近くにかばんを持ってくる	1	2	3	3	3	3
かばんから宿題を出す	1	2	2	3	3	3
宿題をカゴに入れる	2	3	3	3	3	3
				9	9	9

達成できたことを、子どもと一緒に確認し、承認・賞賛する(ABC分析のC「子どもにとって良い結果」)。目標・価値・行動のひもづけが大切!

児童生徒にも分かりやすいように具体的に目標を設定する。

宿題プリントをどこに入れたか覚えていないようだ。連絡ファイルに宿題を入れる封筒を貼ってみよう(ABC分析のA「きっかけ」の変更)。

児童生徒が「またやってみよう!」と思えるような褒め方を考えることが大切。本人と一緒に決めるのもGOOD!

目標 9点を3回とることができる

→

ごほうび 宿題なし券を1枚もらえる

ABC分析のC「子どもにとってよい結果」→行動の強化につながる。

もう少し定着したか様子を見て、次は「提出物を出す」を目標にしてみよう。
だんだん1人で登校後の準備ができるようにしていこう。

指導期間 年 月 日 () ~ 年 月 日 ()

指導の手続き作成フォーム

子どもの名前 _____

担任 _____

① 具体的な「させたい行動」

A: きっかけ (直前)

- いつ、どこで、誰と、何をしようとしているとき など

掃除の時間に

B: させたい行動

一人で机拭きをする

C: 結果 (直後)

⑤ できたときのほめ方 (ほめる頻度=強化スケジュール)

拭き始めや途中で、「丁寧に拭けているね」

最後の机の時に「雑巾が真っ黒だね。机の汚れが吹きとんでいったね。」

② 「させたい行動」を教える場面

誰が(かかわる人)

支援員
学級担任

いつ

掃除開始のチャイムが鳴ったら

どこで(教える場面)

教室

③ 「させたい行動」を引き出すための具体的な指示やてがかり

環境の工夫

机の上を片付けておく
仲が良い友達と分担する

ことばかけ・提示するもの

「机拭きをしよう！」
机拭きの雑巾を持ってきて！」

準備するもの

雑巾・手順書

④ 「させたい行動」ができないときの援助の仕方(プロンプト)

a) 机を拭くモデルを示す

「どうするんだっけ?」と
声をかけ、思い出させる。

c) 机を指さす

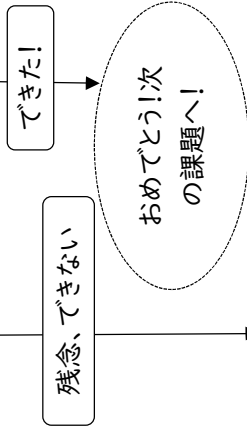
d) 一緒に行く

e) 手順書(視覚的支援)

最初に試すのは (e)
できないときは変更する

⑥ 「させたい行動」の達成基準 (例: 連続10回できたらOK)

一週間毎日、全ての机を拭く



手順書に戻って順に見直しをしてみよう!

事例検討シート

子どもの名前() 担任()

担任が気になること
 ・キレやすい
 →友だちに「うるさい」と言う

子どものよさや好み
 ・漫画を見ること
 ・ルールを守ること

保護者の要望
 ・ちよつとしたことで怒る
 ・穏やかにしてほしい

〈いつ△の状況が起きたか〉

日課	月	火	水	木	金
登校					
朝の会					
1時間目					
休み時間	△				
2時間目	△				
休み時間	△				
3時間目					
休み時間		△			
4時間目		△			
給食					
昼休み	△			△	△
掃除					
5時間目					
休み時間					△
6時間目					△
帰りの会					
放課後					
下校					

〈○の状況〉 *問題のない状況なのはどんなときかについて記入する

A : きっかけ (直前)
 ・授業中・仲よしのペア活動
 ・騒々しくない場所
 ●いつ、どこで、誰と、何をしようとしているときなど

B : 行動
 ・課題や運動に取り組む
 *「～しない。」(否定形)ではなく、肯定形で書く

C : 結果 (直後)
 ・できる ・ほめられる
 *本人にどのようなメリットがあるのか記入する

〈△の状況〉 *困った状況なのはどんなときかについて記入する

A : きっかけ (直前)
 ・体育の時間、順番待ちのとき
 ・昼休みのざわさわした教室
 ・着替えのとき、周りの友達のおしゃべりでうるさくなったとき
 ●いつ、どこで、誰と、何をしようとしているとき など

B : 行動
 ・友だちに「うるさい」と言う
 *「～しない。」(否定形)ではなく、肯定形で書く

C : 結果 (直後)
 ・友だちが黙る
 *本人にどのようなメリットがあるのか記入する

機能
要求
注目
逃避(回避)
自己刺激
その他

〈成果の見届け〉 △の状況が起きた日に印を付ける

4月

月	火	水	木	金
	1	2	3	
6	7 △	8 △	9	10
13 △	14	15 △	16 △	17
20	21 △	22	23 △	24
27	28	29	30	

5月

月	火	水	木	金
				1
4	5	6	7 △	8
11	12	13	14	15
18	19 △	20	21	22
25	26	27	28	29

〈支援方針〉

①△の状況のAを変える
 ・時間割でにぎやかになる活動を確保しておく

②△の状況のAに、○の状況のAの要素を取り入れる
 ・仲よしのペアにする
 ・騒々しくない場所に着替える

③△の状況のBについて、望ましい行動を教える
 ・「静かにね」と友だちに言う

困った行動

戦略シート

子どもの名前

担任

(記入例)

A: きっかけ (直前)

- いつ、どこで、誰と、何をしようとしているとき?
- 生じないときがあれば赤字で記入

②

*多くのきっかけの場面を記入する
*困った行動が生じないとき
=望ましい行動が生じやすい環境条件

B: 行動

- 具体的に記入

①

*「～しない。」(否定形)ではなく、肯定形で書く(例:掃除をしないで友達と話す)

C: 結果 (直後)

- 要求 □注目 □逃避(回避) □自己刺激 □その他

③

*どのような機能(本人にとってのメリット)があるのか記入する

きっかけの工夫

- 困った行動が起ころなく済むための工夫
- 望ましい行動が起こるための工夫
- ※環境, 手かかり, 声かけ, 課題の工夫, 提示方法等

⑤

*どんな状況や手立てがあれば, 望ましい行動が起りやすくなるのか記載する

望ましい行動

- 指示に従うスキル
- コミュニケーションスキル
- 余暇スキル □その他

④

*本人を主語とし, 具体的・肯定的に記入

それでも困った行動が生じた場合

結果の工夫(強化の手立て)

- ほめことば □ごほうび □好きな活動 □トークンシステム □その他

⑥

*望ましい行動ができたときに, どのように強化する(ほめる)のかを記入

- 成功に導く手立て □クールダウン □その他

⑦

*上手くいかなかったときの手立てを記入

中止基準に達した場合(望ましい行動が増えなかった場合)

きっかけの工夫, 望ましい行動, 結果の工夫を見直す

めあて くつばこをきれいにつかおう

全体に対するPBS(1層支援)の記録に向いています。

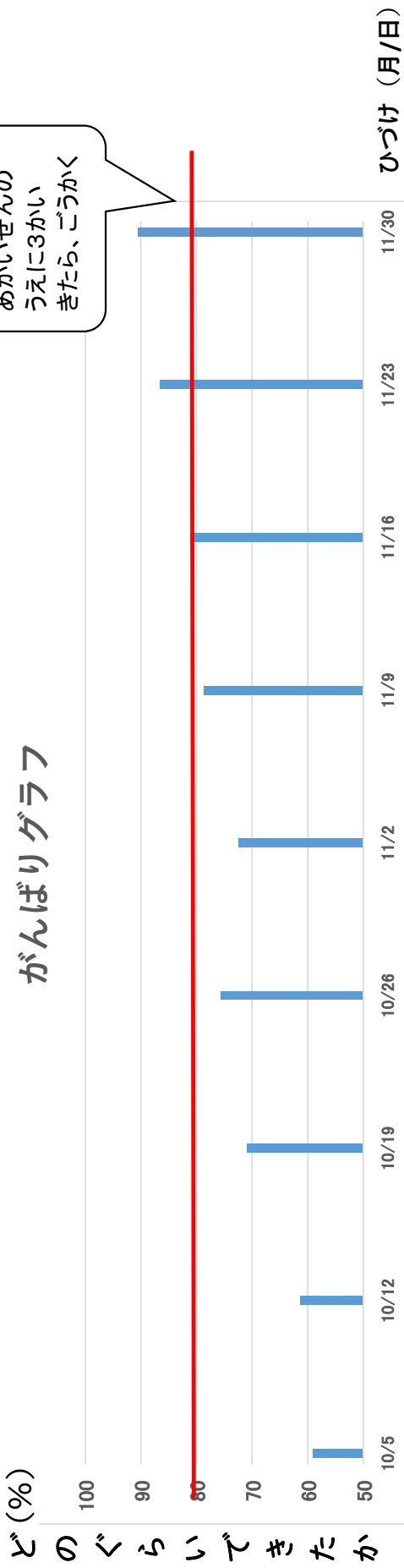
望ましい状況の写真データを

貼る



チェックポイント

- ・くつはそろえていれよう
- ・くつはくつばこにいれよう
- ・みどりのしばふでぬごう



ごうかくしたごほうび
みんなでドッジボールたいかいをする

めあて くつばこをきれいに使おう

全体に対するPBS(1層支援)の記録に向いています。

望ましい状況の写真データを貼る

チェックポイント

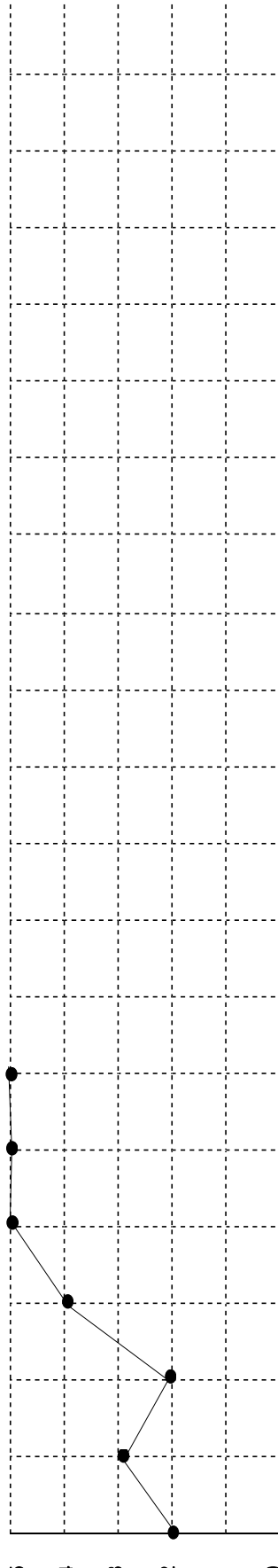
- ・くつはそろえて入れよう
- ・くつはくつばこに入れよう
- ・緑のしばふでぬごう

Good

(点)

5
4
3
2
1
0

得点



12/1 12/2 12/5 12/6 12/7 12/8

日付(月/日)

得点

5点…120～150人 4点…76～119人 3点…46～75人 2点…16～45人 1点…1～15人

達成基準

5点に14回以上なったら, 達成

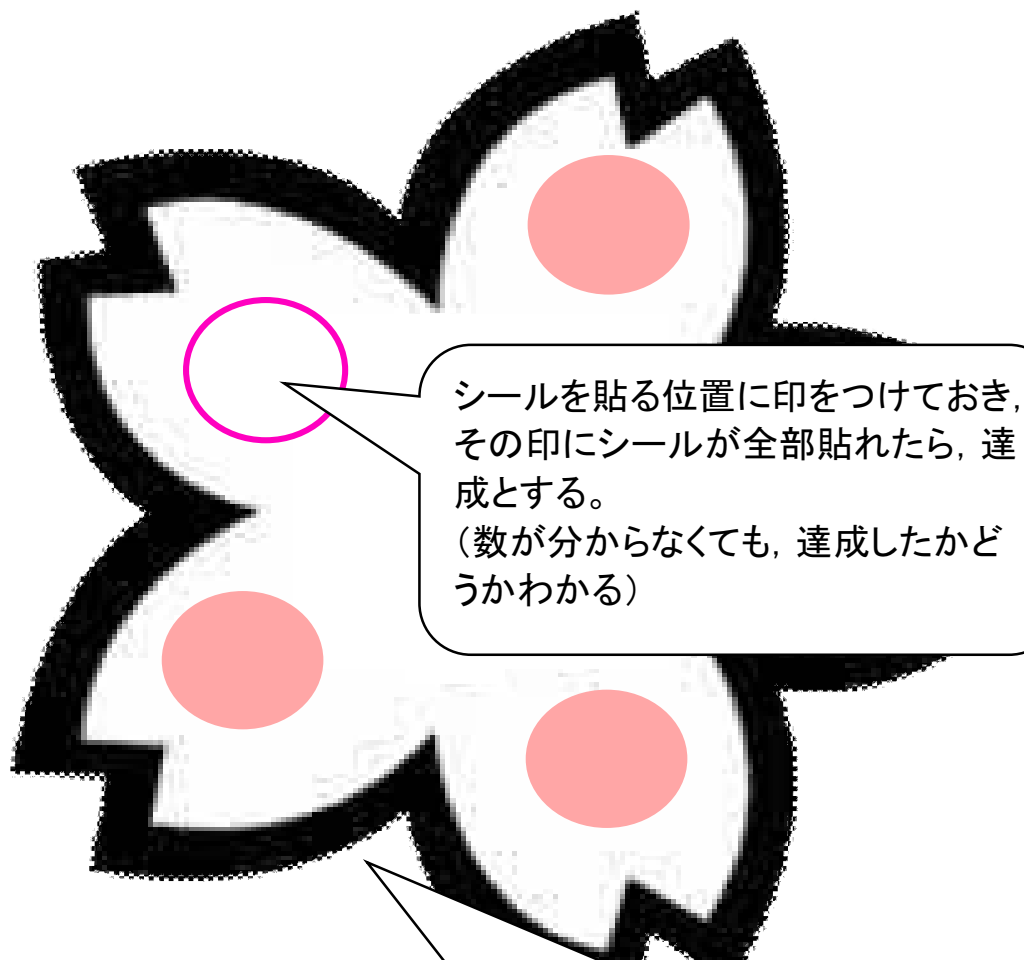
達成したごほうび

全校でドッジボール大会をする

めあて：

「おはよう（ございます）」とせんせいにあいさつしよう

個人に対するPBSの記録
(3層支援)に向いています。



シールを貼る位置に印をつけておき、その印にシールが全部貼れたら、達成とする。
(数が分からなくても、達成したかどうかわかる)

イラストやシールは、児童の興味・関心のあるものを使用する。

(あいさつ)ができたなら、シール1まい

シールが (5) まい たまったら、ごうかく

ごほうび： タブレットで10ぷんかん あそべる

個人に対するPBSの記録
(3層支援)に向いています。

目標は、支援の度合い(例:一人で、声かけで等)も含め、具体的に記入する。

目標：
「おはよう（ございます）」と教師の声かけで挨拶することができる

	4月12日	4月13日	4月14日	4月15日	4月18日	4月19日	4月20日
教師の声かけであいさつできた			○		○		
できなかった	○0	○0	0	○0	0	○0	○0

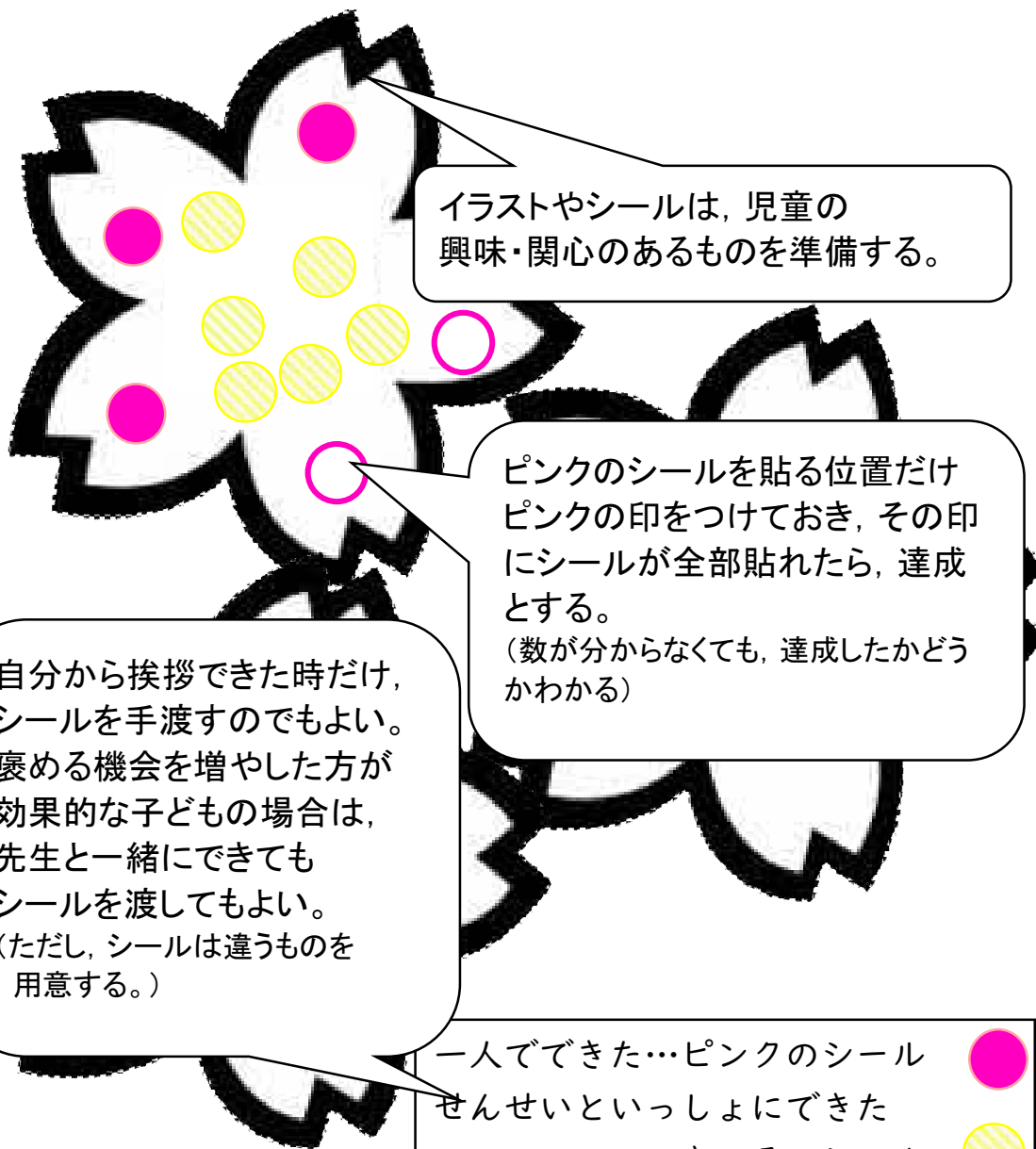
	4月21日	4月22日	4月25日	月 日	月 日	月 日	月 日
教師の声かけであいさつできた	○	○	○				
できなかった	0	0	0	0	0	0	0

	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
教師	連続が難しい場合は、「1週間に○回できたら」「4点が3回できたら」等、子どもの実態に応じて達成基準を変更する。						
	児童生徒が「またやってみよう！」と思えるような褒め方を考えることが大切。本人と一緒に決めるのもGOOD!						0

達成基準	1点が3回連続できたら達成	→	褒め方	タブレット端末で10分遊ぶ
------	---------------	---	-----	---------------

めあて：

「おはよう（ございます）」とせんせいにあいさつしよう



(あいさつ)ができれば、シール1まい

ピンクのシールが 5まい はれたら、ごうかく

ごほうび： タブレットで10ぶん あそべる

個人に対するPBSの記録
(3層支援)に向いています。

年()組 氏名()

目標： 絵カードを見て「おはよう(ございます)」と
自分から先生にあいさつできる

目標は、支援の度合い(例:一人で、声かけで等)も含め、具体的に記入する。

	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
自分からあいさつできた (ピンクのシール)	2	2	2	2	2	2	2
先生のうながしであいさつ できた(黄色のシール)	1	1	1	1	1	1	1
できなかった	0	0	0	0	0	0	0

得点化、視覚化することで1段階あがるだけでも自信につながりやすい。また、教員も褒める機会が増える。

	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
自分からあいさつできた (ピンクのシール)	2	2	2	2	2	2	2
先生のうながしであいさつ できた(黄色のシール)	1	1	1	1	1	1	1
できなかった	0	0	0	0	0	0	0

連続が難しい場合は、「1週間に○回できたら」「4点が3回できたら」等、子どもの実態に応じて達成基準を変更する。

児童生徒が「またやってみよう！」と思えるような褒め方を考えることが大切。本人と一緒に決めるのもGOOD!

達成基準	2点が3回連続できたら達成	→	褒め方	タブレット端末で10分遊べる
------	---------------	---	-----	----------------

個人に対するPBSの記録
(3層支援)に向いています。

)年()組 氏名()

目標は、児童生徒に分かりやすいように
望ましい行動を具体的に記入する。

目標： 登校したら、提出物をカゴに入れよう

スモールステップで段階を表示しているため、「今日はここまで
がんばろう」と自分で目標を設定しやすい。

	5月14日	5月17日	5月18日	5月19日	5月20日	5月21日	5月24日
1人でできた	3	3	3	3	3	3	3
先生の声かけでできた	2	2	2	2	2	2	2
先生と一緒にできた	1	1	1	1	1	1	1
できなかった						0	0
その日の得点				2		2	2
これまでの合計得点	1	2				8	10

目標を「できた回数(例:4点が3回連続できる)」で
設定した場合は、合計得点の欄は削除する。

得点化、視覚化することで1段階あが
るだけでも自信につながりやすい。また、
教員も褒める機会が増える。

	5月25日	5月26日	5月27日	5月28日	5月31日	6月1日	月 日
1人でできた	3	3	3	3	3	3	3
先生の声かけでできた	2	2	2	2	2	2	2
先生と一緒にできた	1	1	1	1	1	1	1
できなかった	0			0	0	0	0
その日の得点	2						

得点が数値化され、視覚的にも
分かりやすい。

達成基準の設定
は、合計得点で
もよいし、できた
回数(「□点が○
回できる(続く)」
でもよい。

児童生徒が「またやってみよう！」
と思えるような褒め方を考えること
が大切。本人と一緒に決めるのも
GOOD!

目標達成	25点	→	ごほうび	タブレットたんまつで10分遊べる
------	-----	---	------	------------------

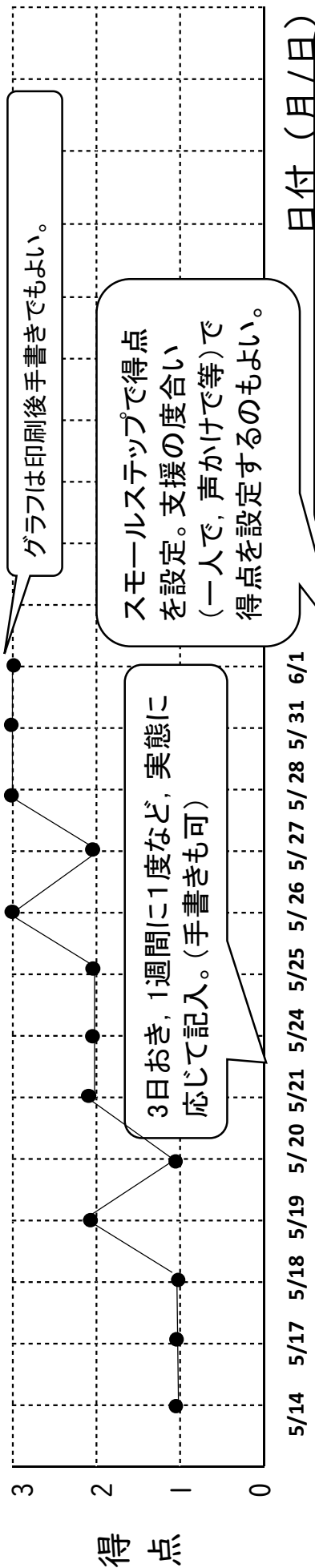
個人に対するPBSの記録
(3層支援)に向いています。

(年 組) 氏名 (

目標は、支援の度合い(例:一人で、声かけで等)も
含め、具体的に記入する。

目標： 登校後、提出物をカゴに入れることが一人でできる

(点)



グラフは印刷後手書きでもよい。

スモールステップで得点を設定。支援の度合い(一人で、声かけで等)で得点を設定するのよい。

3日おき, 1週間に1度など, 実態に応じて記入。(手書きも可)

児童生徒が「またやってみよう!」と思えるような褒め方を考えることが大切。本人と一緒に決めるのGOOD!

3点...1人でできた
1点...先生と一緒にできた
2点...声かけでできた
0点...できなかった

連続が難しい場合は、「1週間に〇回できたら」「4点が3回できたら」等, 子どもの実態に応じて達成基準を変更する。

達成基準 3点が3回連続できたら達成

目標が達成したときの褒め方(例)
提出名人の賞状を渡す
宿題なし券を渡す
ことばで褒める 等

中止基準 1点以下が7回連続したら, 手立てや目標の修正を行う
すぐに評価→改善へとつながる。

個人に対するPBSの記録
(3層支援)に向いています。

()年()

目標は、児童生徒に分かりやすいように
望ましい行動を具体的に記入する。

目標：「おはよう（ございます）」と自分から1人以上にあいさつしよう

スモールステップで段階を表示しているため、「今日はここまで
がんばろう」と自分で目標を設定しやすい。

得点化、視覚化することで1段階あがる
だけでも自信につながりやすい。また、
教員も褒める機会が増える。

	月	日	月	日	月	日	月	日
自分から1人以上にあいさつできた	4	4	4	4	4	4	4	4
相手のあいさつの後、あいさつできた	3	3	3	3	3	3	3	3
相手のあいさつの後、えしゃくできた	2	2	2	2	2	2	2	2
先生のうながしてえしゃくできた	1	1	1	1	1	1	1	1
できなかった	0	0	0	0	0	0	0	0
その日の得点	目標を「できた回数(例:4点が3回連続できる)」で 設定した場合は、合計得点の欄は削除する。							
これまでの合計得点	2	3	6					

	月	日	月	日	月	日	月	日
自分から1人以上に声を出してできた	4	4	4	4	4	4	4	4
相手のあいさつの後、あいさつできた	3	3	3	3	3	3	3	3
相手のあいさつの後、えしゃくできた	2	2	2	2	2	2	2	2
先生のうながしてえしゃくできた	1	1	1	1	1	1	1	1
できなかった	0	0	0	0	0	0	0	0
その日の得点								
これまでの合計得点								

目標の設定は、
合計得点でも
よいし、できた
回数(「□点が
○回できる(続
く)」)でもよい。

児童生徒が「またやってみよう！」
と思えるような褒め方を考えること
が大切。本人と一緒に決めるのも
GOOD!

得点が数値化され、視覚的にも分かりやすい。

目標達成	「これまでの合計得点」が 16点以上で達成	→	ごほうび	タブレットたんまつで10分遊べる
------	--------------------------	---	------	------------------

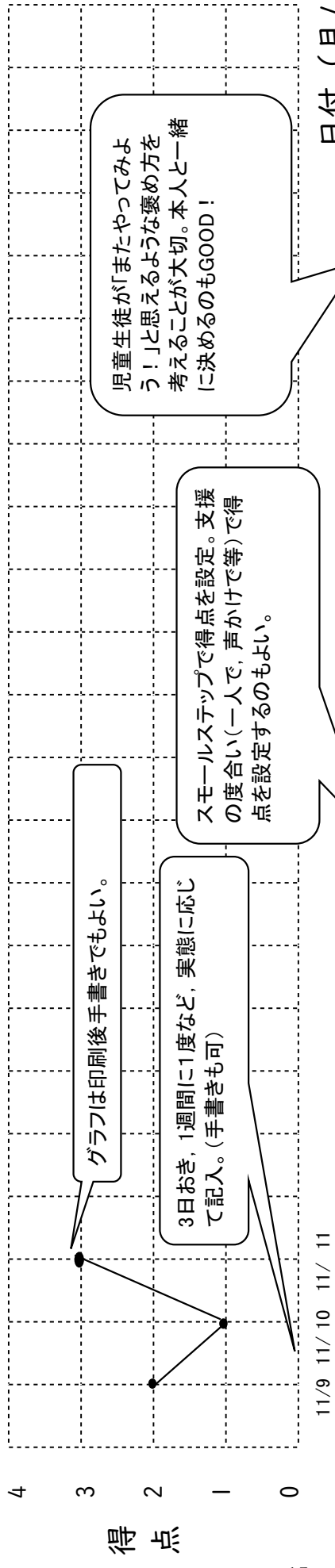
個人に対するPBBSの記録
(3層支援)に向いています。

(年 組) 氏名 ()

目標は、支援の度合い(例:一人で、声かけで等)も含め、具体的に記入する。

目標: 「おはよう(ございます)」と自分から1人以上に挨拶できる

(点)



目標が達成したときの褒め方

例)
あいさつ名人の賞状を渡す
宿題なし券を渡す
ことばで褒める 等

中止基準を決めておくことで、すぐに評価→改善へとつながる。

- 4点...自分から声を出して1人以上
- 3点...相手の挨拶後できた
- 2点...相手の挨拶にえしやく
- 1点...先生のうながしでえしやく
- 4点が5回連続したら達成とする
- 連続が難しい場合は、「1週間に〇回できたら」「4点が3回できたら」等、子どもの実態に応じて達成基準を変更する。

1点以下が7回連続したら、手立てや目標の見直しを行う


個人に対するPBSの記録
(3層支援)に向いています。

() 年 ()

目標は、児童生徒に分かりやすいように
望ましい行動を具体的に記入する。

目標 : 「おはよう (ございます)」と自分から大きな声で3人以上に挨拶しよう

スモールステップで段階を表示しているため、「今日はここまでがんばろう」と自分で目標を設定しやすい。

	月16日	月 日					
自分から大きな声で3人以上に挨拶できた	5	5	5	5	5	5	5
自分から1人以上に声を出して挨拶できた	4	4	4	4	4	4	4
相手の挨拶後、声を出して挨拶できた	3	3	3	3	3	3	3
相手の挨拶後、えしゃくできた	2	2	2	2	2	2	2
先生の声かけてえしゃくできた	1	1	1	1	1	1	1
できなかった	0	0	0	0	0	0	0
その日の得点	3	2	5	5	4	5	
これまでの合計得点	3	5	10	15	19	24	

得点化、視覚化することで1段階あがるだけでも自信につながりやすい。また、教員も褒める機会が増える。

目標達成を「できた回数(例:5点が3回連続できる)」で設定した場合は、合計得点の欄は削除する。

	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
自分から大きな声で3人以上に挨拶できた	5	5	5	5	5	5	5
自分から1人以上に声を出して挨拶できた	4	4	4	4	4	4	4
相手の挨拶後、声を出して挨拶できた	3	3	3	3	3	3	3
相手の挨拶後、えしゃくできた	2	2	2	2	2	2	2
先生の声かけてえしゃくできた	1	1	1	1	1	1	1
できなかった	0	0	0	0	0	0	0

その日の得点

得点が数値化され、視覚的にも分かりやすい。

達成基準の設定は、合計得点でもよいし、できた回数(「〇点が〇回できる(続く)」でもよい。

児童生徒が「またやってみよう!」と思えるような褒め方を考えることが大切。本人と一緒に決めるのもGOOD!

目標達成	20点
------	-----

→

ごほうび	タブレットたんまつで10分遊べる
------	------------------

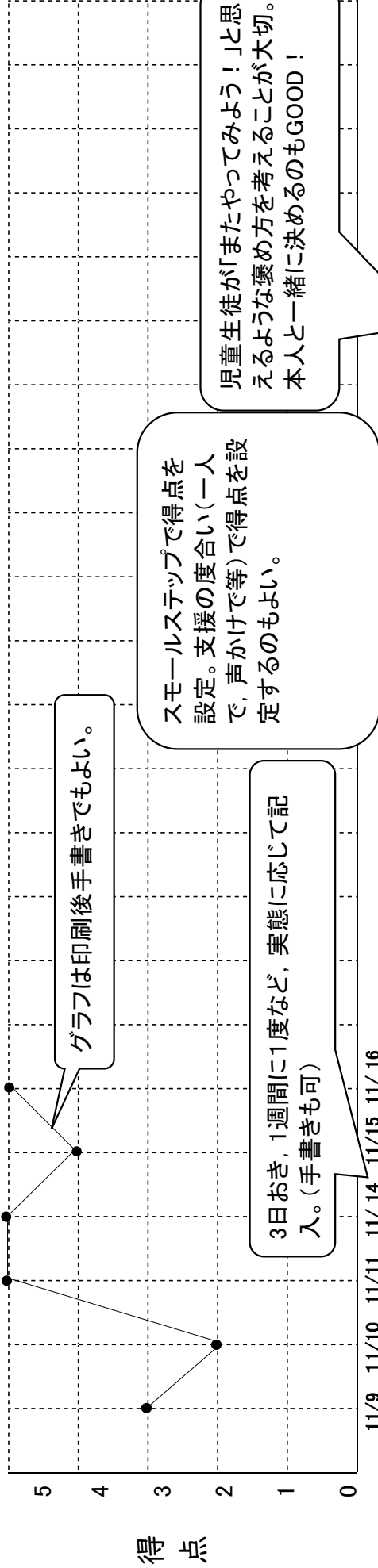
個人に対するPBSの記録

(年 組) 氏名 (

目標は、支援の度合い(例:一人で、声かけで等)も含め、具体的に記入する。

目標: 「おはよう (ございます)」と自分から大きな声で3人以上に挨拶できる

(点)



グラフは印刷後手書きでもよい。

スモールステップで得点を設定。支援の度合い(一人で、声かけで等)で得点を設定するのよい。

3日おき、1週間に1度など、実態に応じて記入。(手書きも可)

児童生徒が「またやってみよう!」と思えるような褒め方を考えることが大切。本人と一緒に決めるのもGOOD!

- 得点
- 5点・・・自分から大きな声で3人以上
 - 4点・・・自分から声を出して1人以上
 - 3点・・・自分から相手にえしやく
 - 2点・・・相手のあいさつにえしやく
 - 1点・・・先生のうながしがしえしやく
 - 0点・・・できなかつた

達成基準

5点が5回連続したら達成とする

連続が難しい場合は、「1週間に〇回できたら」「4点が3回できたら」等、子どもの実態に応じて達成基準を変更する。

中止基準

1点以下が7回連続したら、手立てや目標の変更を行う

中止基準を決めておくことで、すぐに評価→改善へとつながる。

目標が達成したときの褒め方

例)

- あいさつ名人の賞状を渡す
- 宿題なし券を渡す
- ことばで褒める 等